

(別記)

飯島町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

水稲をはじめ、麦・大豆・そばは担い手法人を中心とした機械化が進み、コストダウンが図られている。転作作物については地域の特色を生かした取り組みがされてきており、安定した生産が出来ることで産地の確立が期待できる。

しかし、農業経営者の高齢化とそれに伴う担い手・後継者不足は年々増加傾向である。担い手法人や地域の担い手も経営規模の拡大には限界があり、今後の地域農業を担ってもらう新たな就農者や法人の後継者などの掘り起しが必要である。

また、圃場整備により大型機械で作業が出来る地域は農地の集積も進んでいるが、機械が入らない小規模な圃場は作付がされず、遊休農地になってしまう恐れがある。このような圃場もその特性を生かした作物の振興などを図り、農地を維持していく取り組みをしなければならない。

そして生産作物の販売面では、産地規模が小さいため、生産販売体制の整備や物流コストの削減、多様な販路開拓などによる販売力の強化が課題である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産に取り組むため、生産数量目安値を提示することとする。また、県や町の栽培基準による作付けを基本としながら機械化一貫体制による省力化・低コスト化に取り組み、町営農センターおよび環境共生栽培普及会と協力して、安全・安心の環境共生米づくりを推進し、面積拡大と販路の拡大に取り組む。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

町内酪農家が少なく、近隣市町村の酪農家の情報が乏しいため、需要調査を実施し実態を把握した上で、需要に応じるため栽培面積の拡大を図る。また、水田活用米穀として取り組みに対して助成を行う。

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS用稲

町内酪農家が少なく、近隣市町村の酪農家の情報が乏しいため、需要調査を実施し実態を把握した上で、需要に応じるため栽培面積の拡大を図る。水田活用米穀として、生産性の向上（団地化、利用集積）の取り組みに対して助成を行う。

オ 加工用米

水田活用米穀としてＪＡ上伊那からの提案に沿い、加工用米の生産を振興するため、取り組み者に対して助成を行う。

カ 備蓄米

水田活用米穀としてＪＡ上伊那からの提案に沿い、備蓄米の生産を振興する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、販売価格が安く、大幅な拡大が見込めないが、転作作物としての位置づけを明確にし、団地化作物として推進する。収益力・生産性の向上として団地化、利用集積の取り組みに対し助成を行う。

大豆については、販売価格が安く、大幅な拡大は見込めないが、除草技術の確立と連作障害の回避に努め、団地化を推進する。水稻の「雑草イネ」対策として、２年間の転作作物として導入を進める。収益力・生産性の向上として団地化、利用集積の取り組みに対し助成を行う。

飼料作物については、作業委託等により簡略化に取り組めること、また転作物目としての優位性を基に面積拡大に努める。省力機械化体制により生産性の向上に努める。

(4) そば

そばについては、計画生産と種子そば生産地としての産地のブランド化の推進を図る。乾燥調整施設の共同利用を行い品質の均一化を図り、一括有利販売を展開することとする。作業委託等により簡略化に取り組めること、また転作物目としての優位性を基に面積拡大に努める。収益力・生産性の向上として団地化、利用集積の取り組みに対し助成を行う。

(5) 高収益作物（野菜等）

農業者の所得増大に向け、産地交付金を有効に活用しながら高収益作物である、アスパラガス、ねぎ、ブロッコリー、きゅうり、スイカ、スイートコーン、キャベツ（業務用・加工用含む）、アルストロメリア、ユリ、トルコギキョウ、栗、柿、桃、りんご、ぶどうを地域振興作物に位置づけ、作付けを推進し、特色ある産地づくりをすすめる。

(6) 畑地化の推進

需要に応じた主食用米の生産や高収益作物の取り組みを進める中で、生産性の向上と産地づくりをすすめるため、畑地化およびその団地化に取り組む。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	494.45	494.90	494.00
飼料用米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	7.42	7.90	8.30
加工用米	1.00		
備蓄米	0	0	0
麦	22.80	24.00	25.50
大豆	21.25	23.00	24.90
飼料作物	0.99	1.10	1.30
そば（延べ面積）	178.94	180.00	181.50
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	22.78	23.55	24.20
野菜	13.82	14.10	14.40
花き	5.51	5.80	6.00
果樹	3.45	3.65	3.80

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	WCS用稲 麦 大豆 そば（基幹作）	戦略作物およびそばの生産性 向上（団地化・利用集積）への 取り組みに対する助成	団地化面積	（29年度）62.06ha	（32年度）70.00ha
2	そば（基幹作）	そば（基幹作）への助成	作付面積	（29年度）107.88ha	（32年度）108.80ha
3	そば（二毛作）	そば（二毛作）への助成	作付面積	（29年度）71.06ha	（32年度）72.70ha
4	アスパラガス ねぎ ブロッコリー きゅうり スイカ スイートコーン キャベツ（業務 用・加工用含 む）	高収益作物（野菜）への助成	作付面積	（29年度）13.82ha	（32年度）15.50ha
4	アルストメリア ユリ トルコギキョウ	高収益作物（花き）への助成	作付面積	（29年度）5.51ha	（32年度）6.50ha
4	栗 柿 桃 りんご ぶどう	高収益作物（果樹）への助成	作付面積	（29年度）3.45ha	（32年度）3.80ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。